

第13回 九州電力環境顧問会

2013年11月14日に「第13回 九州電力環境顧問会」を開催し、当社の環境への取組みについて、様々なご意見をいただきました。環境顧問会での主なご意見とその対応方針についてご紹介します。

【会議風景】



九州電力環境顧問会委員（50音順、敬称略）	
浅野 直人	福岡大学 法学部 教授、中央環境審議会委員
大塚 政雄	環境省 環境カウンセラー（市民部門）
門 久義	鹿児島大学大学院 理工学研究科 教授
筒井 泰彦	エッセイスト
鶴田 暁	九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ 会長
詠田 トキ子	NPO法人 みやざきエコの会 理事長
西田 進一	西田鉄工株式会社 相談役
野村 美紀生	株式会社TNC放送会館 代表取締役社長
早瀬 隆司	長崎大学大学院 水産・環境科学総合研究科長

ご意見の概要と対応方針

ご意見の概要	対応方針
<p>【地球温暖化防止への取組みについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 原子力発電については、経営上の優位性だけでなく、CO₂排出削減に大きく寄与していることをもっと強く主張していくべきである。 ○ CO₂の累積排出量が地球温暖化に影響を及ぼすことは、国際的な見解も踏まえて確実である。今後は将来の排出削減量だけでなく、累積排出量に目を向ける必要があることを環境アクションレポート等で説明すべきである。 ○ 2013年以降は京都議定書の枠組みから外れるため、従来のようにクレジットの取得に注力するよりも実質的なCO₂排出量の削減を主張していくことが重要。海外での事業や技術支援を通じたCO₂削減量を自社の功績としてアピールする動きが広がりにつつあるため、九州電力においても検討してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地球温暖化防止における原子力発電の優位性については、その活用に伴うCO₂排出削減効果を模式化・グラフ化し、環境アクションレポート等で紹介するなど、強く訴えていきます。 ○ 温室効果ガスの削減については、将来の削減目標達成への取組みと併せて、累積排出量が地球温暖化に影響を与えているという考え方についても、環境アクションレポート等にて積極的に説明し、理解促進を図ります。 ○ 海外との技術交流等を通じた地球温暖化防止への寄与については、引き続き環境アクションレポート等で紹介していきます。その中でCO₂削減量の把握が可能な取組みがあれば、当社の貢献としてアピールしていきたいと考えます。

<p>【再生可能エネルギーに関する説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 太陽光・風力などの再生可能エネルギー導入は今後も拡大していくと考えられるが、設備導入にあたっての課題については、一般的な課題の列挙だけではなく、具体的な事例で紹介する方がよいのではないかと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 再生可能エネルギー導入の課題について理解促進を図るにあたり、各地域で問題となっている具体的な事例を参考に、図などを用いて分かりやすく説明することを心がけています。なお、具体的な事例を直接紹介することについては、公平性の観点に十分留意しつつ、慎重に検討・対応したいと考えます。
<p>【生物多様性への取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生物多様性を社会に定着させるには、企業活動が大きな役割を果たすと考えている。あらゆる事業活動が生物多様性に繋がるという認識をしっかりと持ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 当社は事業活動全般を通じて生物多様性に取り組んでおり、今後も充実した取組みを検討していきます。また、取組みを具体的に示すことで、事業活動と生物多様性の繋がりについて理解促進を図り、九州電力グループ全体で生物多様性への取組みを推進していくよう努めます。
<p>【当社活動のPR】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 環境アクションレポート等の冊子では情報が伝わりにくいことから、テレビCMやマスコミを利用すべき。九州電力が前面に立つことが困難であれば、NPO等の第三者組織を活用してもよいのではないかと考える。 ○ 原子力発電所の再稼働に関する事項は、規制委員会や専門家を中心に進められているが、原子力発電の停止に伴うCO₂排出量増加の問題については、マスコミ等を通じてアピールしていくしかないかと考える。 ○ 耳川の土砂の堆積除去等、九州電力の技術研究には地域貢献に繋がるものがある。様々な場所においてこのような発表をすることは、社会貢献や地域との連携をアピールする機会になると考える。 ○ 各種活動のPRにあたっては、信頼関係が構築されていない方々に理解してもらえらる方法を考えることが必要。九州電力がそうした「姿勢」を見せることは、第三者の方々への理解にも繋がると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ マスコミ等を通じて広く情報発信することは効果的ですが、厳しい経営状況である現状においての対応は困難であると考えます。現在、NPO等との協働による地域・社会共生活動を推進していることから、今後はそのような活動を有効な情報発信の機会と捉え、当社活動をご理解いただけるように努めていきます。 ○ 地域貢献に繋がるような技術研究やその発表については、環境アクションレポート等を通じて積極的に情報発信していくよう努めます。 ○ お客さまとの対話の会をはじめとする取組みにより、あらゆる立場の方々当社へのご理解をいただけるよう努めるとともに、社員一人ひとりが日常の事業活動や当社ホームページ等を通じて寄せられるお客さまの声を把握し、お客さま目線での活動に取り組んでいきます。
<p>【九州ふるさとの森づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 植林活動自体は良い取組みであるが、実施にあたっては地域のニーズに沿っているかを吟味する必要があるのではないかと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 植林活動については、経営状況が厳しいことから引き続き育林（下草刈り）を中心に実施することとしています。今後、植樹を検討する際には、各自治体とも連携しながら地域ニーズに沿う取組みとなるよう努めます。

<p>【放射線(原子力)に関する理解活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 放射線に関しては、二極対立での議論に囚われるよりも、中立的な立場の人々(サイレントマジョリティ)に対して、公平性のある情報を提供し、理解を得ることが最も重要である。 ○ 放射線が身近なものであるにも関わらず、一般の人々には馴染みがない。情報はインターネット上に存在しているが、それを活用する人が少ないことが問題である。日常生活の中に情報を自然に取り込めるような仕組みが必要。 ○ 放射線については、日常会話の中でアピールするような理解活動も必要である。また、一般市民は詳細な報告書を読むことはあまりないため、一目で原子力の必要性を理解できる簡単な資料があるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 放射線については、中立的な立場の方々にご理解いただくことの重要性も念頭に置き、パンフレット「知っておきたい放射線・放射能」等を活用し、引き続きお客さまとの交流・対話の機会を通じた理解の促進に努めます。 ○ 各地域の自然放射線量をリアルタイムで掲載しているサイトを当社ホームページや環境アクションレポートにおいて紹介する等、一般の方々が放射線に関する情報に触れやすい環境づくりに取り組みます。 ○ 原子力発電の必要性等を紹介する資料については、平易な表現や分かりやすい図表を用いる等、一般の方々に気軽に読んでいただけるものになるよう心掛けます。
<p>【地域・社会共生活動のあり方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 環境活動の実施にあたっては、参加者が少なく、固定的であるという課題がある。市民と同じ目線で活動を広げるといった方向性のもと、平和や福祉など他のテーマで活動している団体と連携をとれば裾野が広がるのではないかと。 ○ 社会活動を他団体との連携の上で実施していくならば、環境会計における社会活動の整理についても範囲を拡大して考えることができるのではないかと。 ○ 厳しい経営状況をより効果的な地域・社会貢献活動を見つける機会として捉え、地域から必要とされる活動を地域の人々と共に実施することが大事である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自治体が主催する環境活動等に参加するなど、人的貢献を中心とした地域・社会共生活動を全社として推進しており、NPOとの協働についても積極的に検討しています。引き続き、環境以外のテーマで活動している団体との連携も視野に入れながら活動内容を検討するとともに、環境アクションレポートで整理している社会活動についても、現在の記載にこだわることなく、今後の活動内容を踏まえて柔軟に変更していくこととします。
<p>【環境アクションレポート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事業活動と環境負荷の状況について、CO₂排出量が大幅に増加している事実が読み取れない。また、環境目標と実績は、詳細な情報が記載されているが、関心がない人には分かりにくいいため、表現や見せ方に工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ CO₂排出量の増加については、数値の記載だけではその事実が伝わりにくいいため、CO₂排出状況の経年比較が可能なグラフを添える等の工夫に努めます。また、環境目標と実績については、評価における達成欄をイラストにする等、読者の方々が親しみを持って当社の取組状況を把握できるような記載ぶりを検討します。